

仙台市議会議員 いのまた由美 議会報告

ゆみコミ



2021年10月発行 7号

発行人:いのまた由美(太白区版)
〒982-0801
仙台市太白区八木山本町1丁目36-7
グランチェスタ八木山101

令和3年第3回定例市議会が9月9日に開会しました。条例案件が4件、その他案件が12件、人事案件が3件、補正予算が6件、決算認定等に関する件が7件の合計32件を審査しています。いのまた由美は、本会議一般質問と、決算等審査特別委員会で登壇いたしました。

問 八木山動物公園 再整備

開園から55年が経過し老朽化が進んでいる中、ハード面の大規模改修にあわせて、展示にも大きな工夫がこらされた再整備計画案が発表されました。来園者や動物が快適に過ごせるよう工夫をして、価値を最大限に発揮できるよう、議論を重ねてボトムアップで作りに上げた計画とお聞きしました。計画に込められた思いは。

答 子どもたちをはじめ、動物園を訪れる多くの方々が、動物やそれらを取り巻く環境への理解を深め、驚きと感動を与えることができる動物園となるよう、計画を策定いたしました。再整備には長い期間を要しますが、動物の行動等の知識を有している八木山動物公園の全職員の思いが込められた本計画に基づき、着実に事業を推進してまいります。

問 「動物福祉」と「環境エンリッチメント」

答 動物福祉の実現は大変重要な視点と考えており、動物が安心して幸せに過ごせるよう飼育環境の向上などを図ります。また、環境エンリッチメントの取組みは例えば、チンパンジーの知能や身体能力の高さを引き出すため、広い展示場に木々を生い茂らせ、様々な遊具を設置し、生き生きとした姿をご覧いただくこととしています。

問 人里に現れると有害鳥獣といわれる野生動物について、仙台市でも喫緊の課題となっていますが、本来暮らしていた森や山で住み分けができるよう、緩衝帯をつくるなど環境保全をしていくことが重要です。野生動物との共生について、どのように見せていくのかお考えを。

答 動物の生態をメッセージ性を持たせて再現し、獣害問題や里山の保全などに関する啓発を行います。動物展示を楽しみながら、体の特徴や能力、生息地の現状や保全の重要性を学ぶことができる計画としています。

問 世界がコロナ禍を乗り越えたあかつきには、国際対立や苦難を乗り越えた象徴として、ジャイアントパンダの誘致を再開し、元気や魅力をアップしていきたい。ジャイアントパンダの誘致・展示計画の現状を伺います。

答 ジャイアントパンダについては、エリアIIに予定地を確保し、導入の際には、レッサーパンダとの比較展示を行うこととしています。今後、感染症の収束などを見ながら誘致を再開して参りたいと考えています。



質問 困難を抱える女性の支援 「女子のためのほっとスペース」

本市では「女子のためのほっとスペース」の取組をスタートしました。共に取り組んでいる地域の支援団体から、日常的に対応している支援事例を提供いただき、実態把握することを求めます。

答弁 今後、本事業の実施状況と合わせ、各団体の課題認識やこれまでに関わった事例など、支援の現場における実態についても、関係部局としっかり連携していきますよう、努めてまいります。

相談もできます!

女子のためのほっとスペース

申込不要 参加無料

あなたの「Eやみや」をちょっと軽くしませんか? さまざまな分野の専門家があなたを待っています。

●お悩み相談(無料) ●お悩み相談(有料)

●お悩み相談(有料) ●お悩み相談(有料)

- 10/17 (日) 荒井駅 せんだい3.11メモリアル交流館
 - 11/14 (日) 国際センター駅2階 青葉の風テラス
 - 12/19 (日) 仙台フォーラス8階 TAGCommunity
 - 2/20 (日) イズミティ21 2階会議室
- いずれも13時~16時 女性専用無料



重度障害者等の就労支援

問 重度障害者の方から、就労中に必要な介助を制度上受けることができないという声が上がっています。2019年にさいたま市で就労支援制度が始まり、2020年から国も事業化をしました。本市の検討状況は。

答 働くスキルがあるものの、一人で通勤することが難しいという方の通勤手段の確保を後押しすることにつながり、比較的障害の重い方の就労を促進するうえで大変効果的なものと考えています。一方、仕組みの複雑さや相談支援員の関わりなどの課題もあります。今後、把握した事例や課題なども踏まえつつ、障害のある方々が自らの能力を活かし就労していくうえで、より望ましい環境が実現できるよう、引き続き検討を進めてまいります。

9月28日 決算等審査特別委員会（第一分科会）

障害のある方への選挙の合理的配慮

問 仙台市選挙管理委員会のホームページには、障害者等への配慮に関するよくある質問が掲載されていますが、特出しをして、もっとわかりやすく、やさしい日本語や写真やイラストを活用したページの作成を求めます。

2014年に日本が批准した「国連障害者権利条約」には、障害のない人が当たり前享受到していることを、障害のある人もやれるようにという考えに基づき、「政治的及び公的活動への参加の機会を保障すること」も示されています。本市においても関係部署と連携や情報交換をして、障害者の社会参画の推進として、選挙啓発・当事者参画をすすめるべきと求めます。

答 障害のある方に配慮したやさしい日本語のページや、合理的配慮をまとめたページは他都市の事例を参考に今後検討します。

障害のある方が選挙を通して政治に参加することはとても重要なことと認識しています。これまで公職選挙法に基づいて「郵便等による不在者投票」や投票所における「点字投票」「代理投票」、バリアフリーを実施したり障害者に対応するマニュアルを示すなど、本市でも様々な取り組みをおこなってきました。障害のある方への選挙啓発に関しては、関係部局の専門的知識や情報の活用が必要な場合も想定されますので、必要に応じて情報交換をしながら、障害のある方への啓発活動や当事者参画の在り方について引き続き検討します。

8～9月に大学生のインターンを受入れて活動しました

NPO法人ドットジェイピーを通じ、インターン生を受入れ活動を共にしました。視察や活動参加等への対応のご協力やご指導をいただき、ありがとうございました。



東北福祉大2年（福祉心理学科）Hさんの感想

いのまた議員のもとで2か月間のインターンを通して、普段生活している中では無意識に見て見ぬようにしていた社会の現実を直面し、本当に貴重な体験となりました。社会を支えるための様々な場に行ったことで、自分が知らず知らずのうちにもっていた偏見で人々を傷つけてしまっていることに気づかれ、よりよい社会の姿について考えるきっかけとなりました。

困難を抱えている方は、自己肯定感が低い場合もあり人を頼れずにいるという心情があることも知りました。私たちはその気持ちを知らないがゆえ、積極的に支援を提供しようとする姿勢が足りていません。困っている人が声をあげないことに対して「支援が足りている」という認識をもつのではなく、言葉に出来ないその方の気持ちや経歴を理解しようと働きかけ、社会から孤立させないことを、一人ひとりが意識していく重要性を感じました。この気づきをもとに、普段の生活から一人の人を見るときに多面的に見て、共感しながらの支援をこころがけようと思いました。この2か月間の経験を無駄にしないよう、これからの生活に活かしていきたいと思います。

東北福祉大1年（福祉心理学科）Cさんの感想

2ヶ月間のインターンを通し、施設を回ったり、あいさつ運動など普段の生活では体験できないことを沢山させて頂きました。全て素敵な体験だったのですが、その中で1番印象に残っているのは、「私たちは『買われた』」展実行委員会（sendaiろーず）」さんと関わったことです。この活動について、SNSや友人の中には偏見により遠ざけてしまっている人がいて、疑問に思っていましたが、私自身何も行動できていないのが現状でした。ですが、sendaiろーずさんではその疑問を行動に起こそうとしている人が集まって世間に主張をしていました。その姿を見て、自分の考えを伝えることの大切さを教えていただきました。また、その中で自己課題も見つけました。このインターンを通し、自分をしっかり見つめ直すことができ、批判されても自分の意見を主張することの大切さを学ばせていただきました。2ヶ月間沢山の経験をさせて頂き、ありがとうございました。



長町駅前での議会報告



私たちは『買われた』展実行委員会ミーティング

令和3年第2回定例会市議会は、6月8日から23日まで開かれ、新型コロナ対策費にかかる一般会計補正予算案など計14件の議案審査が行われました。いのまた由美は、「地域との協働による課題解決について」など、一般質問いたしました。

質問 太白区松が丘と青山1丁目の境にあるコンクリート製擁壁と管理通路の安全管理について



2021年5月現地調査

現在所有者だった建設会社が解散し清算人もいない所有者不明状態になっており、生活環境の悪化や安全管理上の問題が発生しています。この擁壁については毎年八木山連合町内会を通じて太白区へ要望が提出されており、当局に継続対応していただいています。しかし相次ぐ地震も影響して亀裂や剥離が増えています。隣接する市有地通路にコンクリート破片の落下が増えたことから、青山第一町内会の皆さんが3月に太白区と仙台市に緊急要望書を提出しました。その後、太白区・都市整備局・町内会の方々と合同で現地調査をして、対応の協議が進められています。

今後も、住民の安全安心を守り続ける観点を第一にして連携をすすめ、対応をしていただくことを求めますが、ご所見を伺います。

答弁 当該コンクリート擁壁につきましては、これまでに、本市が管理する隣接通路へ数センチ程度のコンクリート破片の落下が確認されたことから、カラーコーンを設置し、安全確保に努めたほか、大雨時や地震発生時に、道路パトロールを実施するなどの対応を行ってまいりました。民有地内の施設管理につきましては、基本的には、土地所有者が負うべきものと考えておりますが、所有者だった建設会社が解散し、さらには清算人も不在となっていることから、地域住民の皆様も不安に思われているところがございます。こうしたことを踏まえ、まずは道路管理者の観点から、地域からのご意見やご要望などを丁寧にお聞きし、安全安心の確保について、関係部局とも連携を図りながら、取り組んでまいります。

質問 防災など安全安心について

八木山地域では、防災の取組の中で、若者や子育て世帯に情報が行き届いていないという地域課題を見出し、多様な主体が繋がるまちづくり活動の取組に活かしています。太白区家庭健康課では、2015年から市民の方と協働で乳幼児の事故予防ワーキンググループにて防災リーフレットを作成し、窓口にきた子育て家庭にお渡ししています。多様な住民がそれぞれの知見や強みを活かしつつ、行政と補いあって、暮らしの中に防災等の安全安心の取組を根付かせていくことが、今後ますます重要になっていくと考えます。ご所見を伺い、私の第一問といたします。

答弁 地域防災など安全安心に関する取り組みについてのお尋ねでございます。

八木山地域におきましては、防災対策に取り組む地域の団体が、防災マップや非常食レシピ集の作成、大学との連携による啓発など、特色のある活動を行っており、平成30年には防災功労者内閣総理大臣表彰を受けております。

また、子育て関係団体等と区役所のワーキンググループでは、これまで、子育て家庭の非常用持ち出し袋に関するものなど4種類のリーフレットを作成してきており、好評なことから、今年度は水害対応編に取り組むこととしております。

このような多様な主体における日頃からの活動や連携は、地域の特性に応じた自助・共助の力を高め、防災力の向上に大きく寄与することから、太白区としても更なる取り組みを進めてまいりたいと考えております。

仙台市議会議員 いのまた由美

事務所 〒982-0801 仙台市太白区八木山本町1-36-7
グランチェスタ八木山101 TEL/FAX 022-797-7748



ホームページ

1978年北海道生まれ。東日本大震災ボランティアで仙台へ。仙台発の育児本「2歳児サブバイバルライフ」共著など、乳幼児子育て支援の市民活動に参加。赤ちゃんから高齢者まで誰も一人にしない仙台をめざし2015年仙台市議選に立候補、次点。2018年、仙台市医師会看護専門学校を卒業、准看護師取得。2019年8月仙台市議選に再チャレンジして初当選。所属政党の社民党宮城県連合が解散し、まとまって立憲民主党に合流しました。会派は「社民フォーラム市議団」です。

2年間健康福祉委員会に所属、今年9月からは市民教育委員会、防災・減災推進調査特別委員会、広報委員会に所属。上野山小学校PTA副会長。防災士。法政大学通信教育部法学部在籍。2児の母。

仙台版「ネウボラ」の成果や課題は

市長は「この4年間で特に妊娠期・出産期の支援の充実をはかり、産婦健診の費用助成や、産後ケア事業の開始、5歳児発達支援事業を開始し、切れ目ない支援が着実に進んできた」と答弁しました。また、本市母子保健分野と、地域の子育て支援、福祉分野、NPO等との連携もさらに進めていくべきだと質問し、「関係機関と連携した見守りによる虐待予防など取組を進めている」との答弁でした。

ヤングケアラー支援 (6月 健康福祉委員会)

※ その後「ヤングケアラーの実態把握」は郡和子市長の2期目の公約として掲げられ、当選後9月議会で調査費が予算案として出されました。



ヤングケアラーとは？

ヤングケアラーについては、法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている児童、と認識している。子どもたちが家庭の中で、親の家事の手伝いや小さい子の世話をする事自体は良いことではあるものの、その頻度や時間が、手伝いの範囲を超えて過重な負担になり、学業に支障が生じたり、子どもらしい生活が送れなかったりするなど、子ども自身がやるべきことや、やりたいことができないような状態になってしまうことが課題である。



本市の取組の具体例は？

各区役所等においては、ケアが必要な方についてのご相談をお受けした際には、その方へのサポート体制も含めた家庭全体を見て、支援を行っているところ。
ネグレクトなどの児童虐待にあたると思われるケースは、要保護児童対策地域協議会実務者会議において情報共有を図り、連携して対応を行っている。このような世帯については、家族の介護や看病など複合的な課題を抱えていることも多く、引き続き必要な関係機関につなぎながら、支援してまいりたい。
また、子供相談支援センターにおいても、電話相談やふれあい広場等を通じ、ヤングケアラーと思われる例を把握した事例があり、いずれも家庭環境等を踏まえた上で、必要に応じ、関係機関と連携した対応をしているところ



ヤングケアラーという概念が 広まることの効果は？

「ヤングケアラー」という概念が広まることにより、関係機関はもとより、地域の方が、家族のケアをしている子どもを把握しやすくなったり、あるいは子ども自身が声を上げやすくなるということが期待できるものと考えている。



子ども・子育て支援の活動に携わっているNPO等 の方々とオンライン意見交換をおこなっています

岡本あき子衆議院議員のYoutubeチャンネルの企画として、いのまた由美が司会をして、仙台や宮城で活動している方々との意見交換をしています。QRコードからご覧ください。



ふとうこうカフェ 武山理恵さん
不登校や「多様な学び」について



Kaziプロジェクト 木村秀則さん
男性の育児参加について



特定非営利活動法人キミノトナリ
にんしんSOS仙台 東田美香さん
思いがけない妊娠相談から見える
性教育の必要性など



子どもアドボカシーみやぎ
榎崎たつみさん
子どもの声を聴く。子どもの権利など



キッズドア東北事業部
對馬良美さん
子どもの貧困。中高生学習支援など